

会 の 名 称 : さいたま北部医療センター地域協議会

日 時 ・ 場 所 : 2025年3月25日(火) 19:30 ～ 20:15 大会議室・全

出席者 :
<委員側>
松本 雅彦(大宮医師会会長)、遠藤 俊輔(自治医科大学附属さいたま医療センター学附属さいたま医療センター長)、
小池 竜平(さいたま市保健衛生局地域医療課長)、三浦 正稔(さいたま市保健衛生局保健所管理課主幹)
<病院側>
黒田院長、菅原副院長、中條院長補佐、伊澤地域医療連携室長、永井看護部長、佐藤事務長(事務局)
佐藤事務長補佐(総務企画)、大淵地域医療連携室係長

【 議 題 及 び 議 事 録 】

1. 病院の近況について(佐藤事務長)

- ・新型コロナウイルス感染症拡大に伴う影響等について
- ・感染症の影響について
- ・現状及び課題について
- ・医療機能の充実を求める要望について
- ・病院経営について
- ・医療DXについて

2. 収支状況等報告(佐藤事務長補佐)

令和6年度は経常利益2億1,000万円の赤字を見込んでおり、病院経営は厳しい状況。患者数については、入院患者数43,248人、外来患者数121,981人を見込んでいる。

3. その他(意見交換)

—松本会長: 消化器病センターとして内科と外科が協働して消化器系疾患の診察をするのであれば、内科系だと断るのではなく、一度外科で受け入れて内科につなぐ等してほしい。

—黒田院長: 新年度には消化器病センターの塩川センター長を副院長に、神宮外科部長を統括診療部長に任命し、紹介患者を断らない体制づくりや全般的な統括管理にあたってもらう。

—松本会長: コロナの入院患者はまだいるのか。

—黒田院長: 本日時点で4名入院している。介護施設入所中の高齢者が多い。

—小池課長: 医療機能の充実を求める要望について、市内では産科を求める声が多いため、引き続き体制構築に向けて取り組んでほしい。また、令和7年度中に入院病床を163床フルオープンする予定とのことだが、具体的な目途は立っているのか。

—黒田院長: 産婦人科については、妊婦検診を院内で行う体制は整いつつある。お産については、事務棟を産科病棟に改変できるよう設計されているが、その場合事務棟を駐車場のスペースに移築し、駐車場を立体駐車場にしなければならない。建築費や人件費の高騰もあり、今の経営状況では実現困難である。

入院病床のフルオープンについては、看護師の確保状況にもよるが、5月を目途に稼働開始したいと考えている。

—小池課長: 今年度の看護師の離職率や離職人数はどれくらいか。

—永井看護部長: 離職率は1割ほど、人数としては10名程度。例年とほとんど変わっていない。

添 付 資 料 : 無

次回開催日 : 年 月 日

※ 報告書は、開催日より7日以内に総務へ提出すること。

—三浦主幹:救急依頼の応需率が上がらないことについて、ジェネラルに診療できる医師が少ないことが障壁となっているのか、入院になった場合に対応できる看護師等の人材不足が原因であるのか。

—院長:救急担当医が常勤の医師の場合は専門外で応需できないことがあるが、毎週水曜日木曜日は自治医大より救急専門医を派遣いただいているため、当該日の専門外での不応需は減少している。

—松本会長:婦人科検診は実施しているのか。

—黒田院長:常勤医が派遣される以前から、婦人科検診は実施している。

—松本会長:常勤の産婦人科医師が派遣されたことは、健診の収益には関係がないのか。

—佐藤事務長:健診の収益は前年度と比較してやや下がっているが、原因は巡回健診用のための健診バスの老朽化のため1台のみの運用となっているため。巡回の効率化を図ることで対応に努めている。

—遠藤センター長:一日入院患者延べ数や平均入院患者数は計画より見込み数が上回っているが、収益が上がる原因は何があるか。

—佐藤事務長:収入の面では入院単価が1人当たり2,000円程度下がっていること、支出の面では経常費用が上がっていることが原因と考えられる。

—遠藤センター長:3テスラの高性能のCT、MRIをさらに活用してはどうか。

—佐藤事務長:CT、MRIの検査件数は前年度と比較すると増加している。

—黒田院長:来年度より開業医向けに土曜日のCTの予約枠を設けるようになった。読影は翌営業日に常勤の読影医が行う。

—遠藤センター長:地域包括医療病棟に転換すると診療単価が上がるとのことだが、計画はあるのか。

—黒田院長:現在2病棟体制で運用しているDPC病棟のひとつを地域包括医療病棟にした場合、DPC病棟の基準が満たせなくなる可能性がある。一方地域包括ケア病棟を地域包括医療病棟にした場合、運用上の縛りが多く、対応が難しい。したがって現行の病棟体制で運用していく予定。

—遠藤センター長:今年の医療機能評価の受審は何回目か。

—黒田院長:前回の更新が病院移転と同じタイミングであったため、受審しなかった。したがって状況は初受審とほぼ同様である。

—遠藤センター長:アドバイザーを入れる予定はあるのか。

—黒田院長:アドバイザーはいないが、移転前に受審の経験がある中條院長補佐を中心に対策している。

—遠藤センター長:今後のどのように経営状況を改善していくか。

—黒田院長:平均入院患者数が130名程度、163床フルオープンし病床利用率90%を維持できれば黒字になると思われる。

—遠藤センター長:そのための方策は何かあるのか。

—黒田院長:紹介患者を断らず、救急車を多く受け入れるよう努める。

—遠藤センター長:地域の開業医や、自治医科大学附属さいたま医療センターをはじめとした高次医療機関と連携を図りながら、お互いに稼働を上げていく必要がある。

4. 次回開催について

—佐藤事務長補佐:令和7年度第1回は9月開催予定。7月をめぐりに改めてご連絡し日程調整をさせていただく。

以上